

「韓国人の認知症発症率、新型コロナ mRNA ワクチン接種群は未接種群より 23%高い」 ソウル在住・65 歳以上・55 万 8017 人調査【独自】

6/6 朝鮮日報



新型コロナウイルス感染症の予防のために世界的に広く使われていたファイザー社とモデルナ社の新型コロナ「メッセンジャーリボ核酸（mRNA）ワクチン」が認知症や軽度認知機能障害の発生リスクを高める可能性があるという韓国人対象の研究結果が発表された。新型コロナウイルス感染の後遺症で認知機能が低下するという、いわゆる「ブレインフォグ（brain fog）」が生じる可能性があるとの研究結果はこれが初めてで、その関連性に関心が寄せられている。

高麗大学医学部医生命科学神経科のノ・ジフン教授、梨花女子大学ソウル病院情報化科のキム・ミンホ教授ら共同研究チームは、認知症克服研究開発事業団の支援により、mRNA ワクチン接種とアルツハイマー認知症および軽度認知障害（MCI）の関連性を調査した。

研究チームは、ソウル市在住で65歳以上の55万8017人を対象に、mRNA ワクチン接種グループと未接種グループに分けた上で、国民健康保険データを利用して両グループ間の発症率の差を分析した。その結果、mRNA ワクチン接種者の軽度認知障害発症危険度は未接種者に比べて2.38倍高かった。アルツハイマー型認知症の発生率はワクチン接種者の方が23%高かった。一方、ワクチン接種と血管性認知症・パーキンソン病は関連性が見つからなかった。今回の研究は、英オックスフォード大学が発刊する著名な医学国際ジャーナル「QJM」の最新号に掲載された。

ノ・ジフン教授は「ワクチン接種と認知機能低下発生リスクの間に潜在的関連性があるということを示唆している。ワクチンが認知機能と関連した神経変性にどのように影響を及ぼすのかについての神経医学的研究と、ワクチンの神経学的影響についての持続的なモニタリングが必要だ」と語った。金哲中（キム・チョルジュン）記者